

村田文夫 總欽洋學者。天保七年四月五日安藝國生れ、明治二十四年十月二十七日歿（一八三六一一八九一）。講稿、字文夫、幼名虎吉、通稱又橋。號團々子、放浪不羈山人、秋野人、簾雨、簾雨生、蠓湖、雨莊、郵田樞、郵田蠓湖等。藩醫野村正碩の子、少時村田家を繼ぐ。安政二年緒方洪庵の入門。のち長崎の華學を學び、元治元年キリシムに渡る。明治元年歸國して藩の洋學教授、五年工部省出任、八年内務省に轉じ十年退官。同年團々社を創設して雜誌於東京繪團團珍用を創刊した。著譯書に西洋聞見録全八冊（纂述、前編一冊・明治二年冬十一月稟准、二年四月跋、後編一冊・四年春正月官許・天民館藏本）、シ、ハリエス、アルレン著・シヨン、ウキの増補見洋家作の法がたに全四冊（山田貢一郎同譯、明治五年十月玉山堂發兌）、エフ、エツチ、ゲツセル著の繪入子の洪音章全一冊（内題「子洪そたの章」譯、明治六年五月二十七日編、七年一月序、玉山堂）等。